

支部だより

日本金属学会東海支部の活動紹介

東海支部 支部長 野村 一 衛*

日本金属学会が創設された1937年の5年後の1942年に、東海支部は設立されました。東海支部の所轄する岐阜県、静岡県、愛知県、三重県は日本有数の製造業の集積地となっており、全製造業の製造品出荷額においては国内全体の約25%、自動車などの輸送用機械の出荷額においては同約50%を各々占め、非常に高いシェアを誇っています。そして、これらの産業を支える素材産業として、鉄鋼業、非鉄金属業も盛んとなっています。このような地域特性を反映して、東海支部は設立当初から学术界と産業界とが強く連携して活動を進めてきております。その一例として、東海支部では大学と企業から交互に支部長が選出されています。

東海支部の活動ですが、昨年度についてはコロナ禍の影響により活動の多くが停滞し、今年度も不透明な状況が続いています。コロナ禍がいち早く終息することを願うばかりです。ここでは、例年の主な活動について紹介させていただきます。

東海支部の活動は、東海地方の企業の協力の下に(一社)日本鉄鋼協会東海支部との共催で行われており、大きくは講演会、支部研究会、支部主催見学会および支部表彰の4つから成っています。

講演会としては、最新のテーマを選んで「特別講演会」を年2回開催しています。それらに加えて、金属学など学術的に著名な研究者に講演いただく「本多光太郎記念講演会」、および主に企業に所属される著名な技術者、研究者に講演いただく「湯川記念特別講演会」を毎年開催しています。

支部研究会としては、東海支部独自の活動として始めた「学生による材料フォーラム」を開催しています。このフォーラムは、学生が日頃の研究成果をポスター発表し、十二分に議論する場です。一方、高度なテーマについて専門家による議論を重視する場として、「学術討論会」を開催しています。他には、「金属材料談話会」および「材料プロセッシング談話会」が不定期で開催され、国内外の研究者によるホットな情報を地区の研究者・技術者に提供しています。さらに、企業技術者間の交流を図る活動として、「技術交流フォーラム」が実施されています。また、大学および企業の若手中心の研究会である「若手材料研究会」と「若手冶金エンジニア研究会」が活発な活動を展開しています。

支部主催見学会については、将来の材料研究を担う次世代層を意識した「次世代層ものづくり教育」を2008年からス



図1 平成30年度 中高生のための次世代もの作り教室「鉄道車両を支える材料と技術」見学会風景(日本車両製造株式会社 豊川製作所にて)。(オンラインカラー)

タートしました。これは中学生・高校生を対象とした啓発活動であり、金属材料を初步的に理解いただき、見学会を通じて社会における金属材料の有用性を体感することを狙いとしています(図1)。

支部での表彰としては、「学生による材料フォーラム」での「優秀ポスター賞」、支部活動への功績を労う「支部功績賞」、顕著な研究実績に対する「優秀学生表彰」などがあります。

今後の支部活動の展望ですが、これまで述べましたように、学术界と産業界との強い連携が東海支部の特長の一つと考えています。この東海地方は自動車産業や航空機産業の中心地であり、これまでの発展に金属材料の研究は極めて大きな貢献をしてきました。そして、これら産業の今後の飛躍に対しても、金属材料の研究はますます重要になってくると思います。CASE(Connected, Autonomous, Shared, Electric)と言われる自動車の100年に一度の変革、カーボンニュートラルに向けた新技術開発など、研究すべき対象材料、達成すべき材料特性はますます多様化し、高度化を極めていきます。

日本金属学会東海支部が、より良き未来社会に向けた金属材料の研究促進の一助を担えるよう、これからも会員の皆様と共に活動を推進していきたいと思います。

(2021年8月4日受理)[doi:10.2320/materia.60.660]

* 愛知製鋼株式会社；経営役員